

市民・事業者・市が手を携えて進めよう！

岡崎市地震対策アクションプラン

(平成30年度～36年度)

平成30年2月策定

広域的に甚大な被害が発生することが予測されている南海トラフ地震に備え、防災・減災対策をより一層進めるため、岡崎市は「岡崎市地震対策アクションプラン」を策定しました。「大規模地震による死者ゼロと被害の最小化、暮らしの迅速な回復」に向けて、市民、事業所、行政の協働で取組を推進していきましょう。

岡崎市で想定されている被害（冬18時発災）

被害想定項目		過去地震最大モデルの想定結果 () は理論上最大モデルの想定結果
最大震度		7 (7)
建物被害	全壊・焼失	約 3,900 棟 (約 16,000 棟)
	半壊	約 11,000 棟 (約 14,000 棟)
人的被害	死者	約 100 人 (約 700 人)
	負傷者	約 1,400 人 (約 3,200 人)

(南海トラフ地震被害予測調査結果 平成27年3月 岡崎市)

<アクションプランの減災目標>

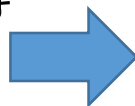
○ “死者ゼロと被害の最小化”の目標値

- ・死者数（直接死）4割減
約100人 ⇒ 約60人
- ・建物被害（全壊・焼失）4割減
約3,900棟 ⇒ 約2,500棟

○ “暮らしの迅速な回復”の目標値

- ・発災後も自宅で生活ができる人の割合
市人口の約91% ⇒ 93%

減災目標の達成を目指して対策を進めます

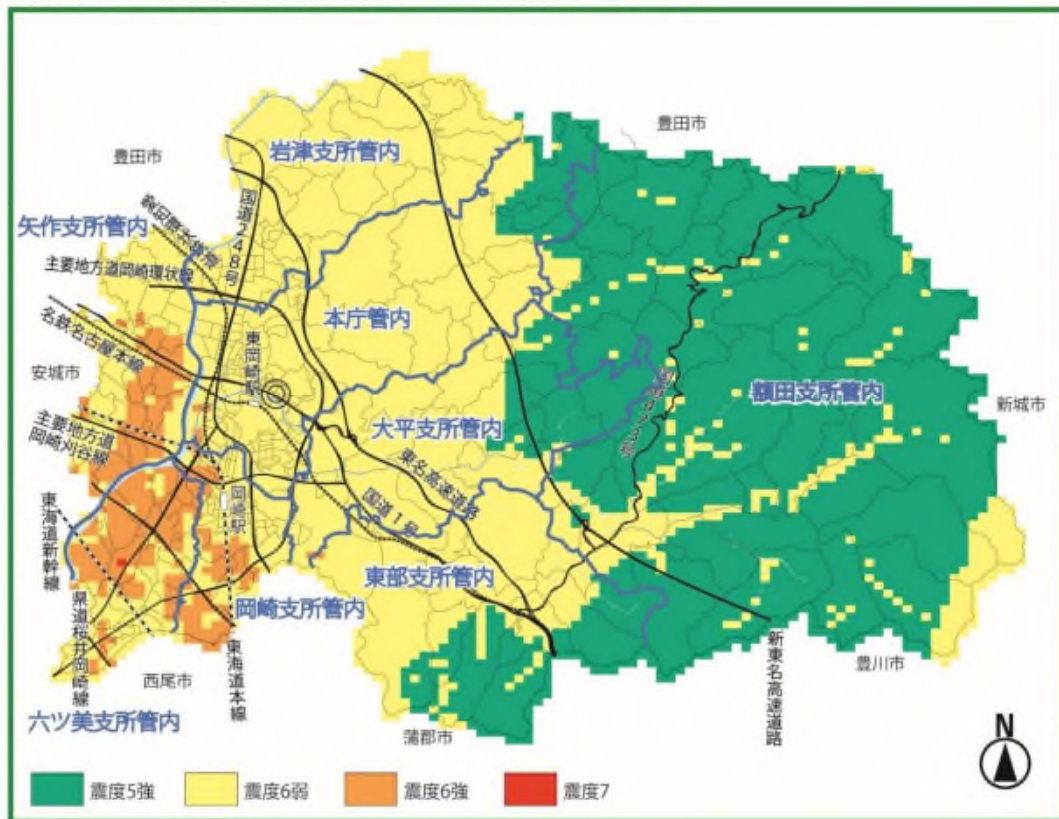


<対策の5つの柱>

- 1 命を守る
- 2 生活を守る
- 3 社会機能を守る
- 4 迅速な復旧・復興を目指す
- 5 防災力を高める

地域でおこりうる震度を確認しよう！

岡崎市の震度予測図（過去地震最大モデル）



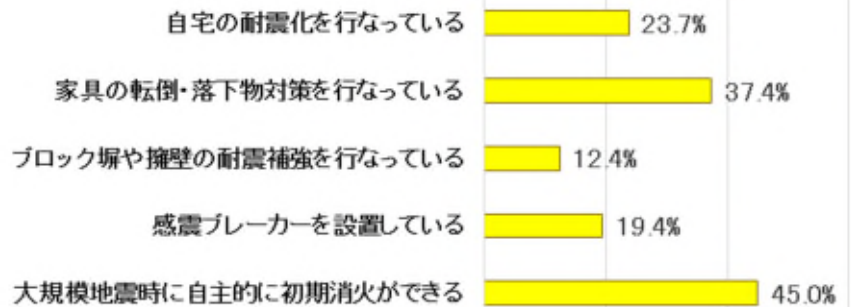
震度と揺れの目安

震度4	・照明などが大きく揺れる。 ・置物が倒れることがある。
震度5弱	・大半の人が恐怖をおぼえる。 ・棚の食器や本が落ちることがある。
震度5強	・固定していない家具が倒れる。 ・物につかまらないと歩けない。
震度6弱	・立っていられない。 ・窓ガラスが破損、ドアが開かなくなることもある。
震度6強	・耐震性の低い木造建物の多くが倒れる。 ・大きな地割れが生じることもある。
震度7	・耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物が倒壊する。

対策の柱1 命を守る

被害想定では、本市の人的被害の要因として建物の倒壊や家具の転倒、急傾斜地の崩壊、火災、ブロック塀の転倒や落下物などがあげられています。命を守るためには建物や塀などの耐震化や室内の安全化、火災予防の対策を実行することが必要です。

対策の実施状況 市民アンケート結果(平成28年10月実施)



アクション1 住宅の耐震化

- ・昭和56年6月より前に着工された木造建物は耐震性が低いとされています。
- ・住宅の耐震化率95%の達成により死者数は約4割減少することが被害想定で確認されています。



アクション2 室内の安全化

- ・過去の地震では家具の転倒、ガラスの飛散などにより室内での人的被害が発生しています。
- ・家具の固定や重い物を高いところに置かないなど、室内を安全にしましょう。
- ・事業所においてもオフィス機器の固定や落下防止対策を実施しましょう。



アクション3 初期消火の技術を身につける

- ・消火器の扱い方など初期消火の技術はぜひ防災訓練で身につけましょう。
- ・避難するときはブレーカーを落とすことも忘れずに！



命を守るために、ご活用ください！

～耐震診断・耐震改修に関する支援制度～

○住宅の耐震診断補助

昭和56年(1981年)5月以前に着工した木造住宅の無料耐震診断、非木造住宅、非木造共同住宅の耐震診断費用の一部を助成します。

○大規模建築物等への耐震診断補助

多数の人が利用する大規模な建築物等の耐震診断費用の一部を助成します。

○耐震改修費や除却費への補助

耐震性の低い住宅の耐震改修費の一部、耐震性の低い木造住宅の除却費の一部を助成します。

<問合せ先>

岡崎市 建築部 住宅課 耐震促進係

電話：0564-23-6709 Fax：0564-23-6208

～室内の安全化に関する支援制度～

○避難行動要支援者家具転倒防止金具取付

65才以上の高齢者や障がい者の世帯を対象に、家具転倒防止の金具を無料で取り付けます。

<問合せ先>

岡崎市 福祉部 長寿課 地域支援係

電話：0564-23-6147 Fax：0564-23-6520

岡崎市 福祉部 障がい福祉課 障がい係

電話：0564-23-6113 Fax：0564-25-7650

■岡崎市が行なう主なアクション

- ・住宅や建築物の耐震化、室内の安全化の促進
- ・道路や避難場所の整備、消防水利や資機材の充実
- ・地盤災害対策の推進
- ・災害時のライフライン機能の確保
- ・救助活動の体制強化
- ・災害時医療活動の体制強化

など

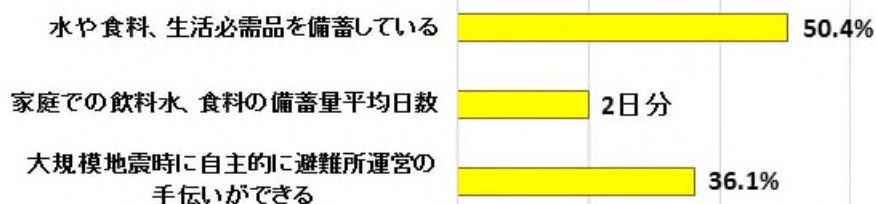
対策の柱2 生活を守る

災害時も自宅で生活するために飲料水や食料、生活必需品を備蓄しておくことが必要です。

一方、住宅が被災して避難所生活を余儀なくされることも考えられます。市民の3人に1人の方が自主的に避難所運営の手伝いができるとしています。

対策の実施状況

市民アンケート結果(平成28年10月実施)



アクション1

飲料水、食料を備蓄する

- ・最低3日分、できれば7日分の飲料水、食料を備蓄します。
- ・カセットコンロなどの熱源があれば、お米や乾麺、冷蔵庫の中の食品も調理できます。



アクション2

避難所運営を地域で話し合う

- ・避難所運営は避難者が主体となって行うことで、様々なニーズに適切に対応することができるようになります。
- ・防災訓練などの機会を捉えて、避難所運営について地域で話し合っておきましょう。

■岡崎市が行なう主なアクション

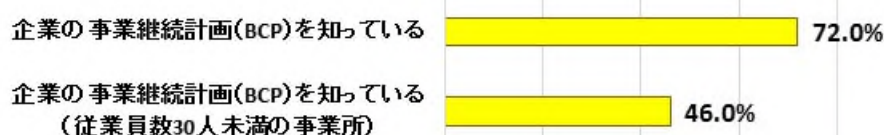
- ・医療施設の耐震化の支援
- ・災害時の保健・介護機能の強化
- ・水、食料、物資等の備蓄、調達体制の強化
- ・避難所の衛生管理や支援体制の強化
- ・帰宅困難者への支援体制の強化
- ・集落の孤立化への対応策の強化 など

対策の柱3 社会機能を守る

岡崎市の事業所は9割以上が従業員数30人未満の規模です。事業継続計画を知らない事業所も多く、策定している事業所は少ない現状があります。

対策の実施状況

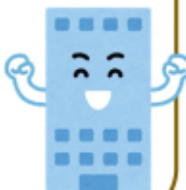
事業所アンケート結果(平成28年9月実施)



アクション1

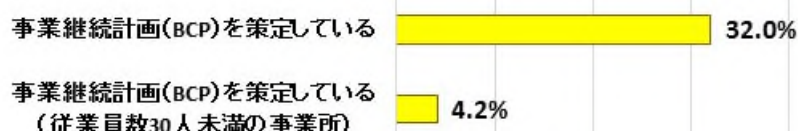
事業継続計画(BCP)を考える

- ・各事業所で事業継続計画(BCP)を作成することは、災害後の早期経営再開につながります。
- ・市はBCP講習会を開催して、計画作成を支援します。



対策の実施状況

事業所アンケート結果(平成28年9月実施)



■岡崎市が行なう主なアクション

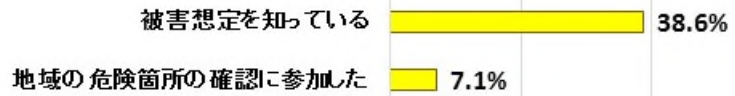
- ・行政機能の維持体制の強化
- ・ライフライン機能維持体制の強化
- ・緊急輸送、物流機能の強化
- ・経済被害軽減に向けた支援策の検討、実施 など

対策の柱4 迅速な復旧・復興を目指す

地形や地盤条件、市街地の状況などによって、地域ごとに様々な被害が発生することが予測されます。想定される揺れの強さや地域の危険箇所を確認し、被災前から災害に強いまちづくりについて話し合っておくことが重要です。

対策の実施状況

市民アンケート結果(平成28年10月実施)



アクション1

地区ごとに起きる被害を確認する

- ・自宅や職場、学校のある地域の想定震度をチェック!
- ・地区毎に考えられる被害を確認して、必要な減災の備えを考えてみましょう。

■岡崎市が行なうアクション

- ・復興方針・体制づくりの推進
- ・災害廃棄物処理体制の強化
- ・罹災証明の早期発行に向けた体制強化
- ・産業復興に向けた事前準備 など

対策の柱5 防災力を高める

防災・減災対策は、岡崎市防災基本条例に基づく「自助、共助、公助」の取組によって、市民、事業所、行政が協働で進めて行く必要があります。発災時のウイークポイントを正しく認識し、災害対応力を強化していきましょう。

対策の実施状況

市民アンケート結果(平成28年10月実施)



アクション1

家庭の防災対策について学ぶ

- ・市では防災出前講座や防災訓練など、家庭や地域で取組む防災対策についてアドバイスをしています。

アクション2

町の防災マップや地区防災計画を作成する

- ・地域住民で話し合って防災マップを作成したり、災害時の活動体制を計画しておく、いざというときに有効です。
- ・マップや計画書は定期的に見直しをしておきましょう。



アクション3

おかざき緊急防災メール

「防災くん」で防災情報を入手する

- ・市では地震情報、警報、避難情報など8種類の防災情報を入手できる緊急防災メール「防災くん」を配信しています。
- ・ポルトガル語、英語、やさしい日本語でも配信しており、外国人の方も防災情報を入手することができます。



■岡崎市が行なうアクション

- ・防災教育の実施、防災リーダー育成
- ・災害情報システムの強化
- ・広域的な連携体制の強化 など

<問合せ先>

岡崎市 市民生活部 防災課 防災企画係

〒444-8601

岡崎市十王町2丁目9番地(東庁舎2階)

電話 0564-23-6533

FAX 0564-23-6618